

富士山における外来植物防除マット・ブラシの設置事例

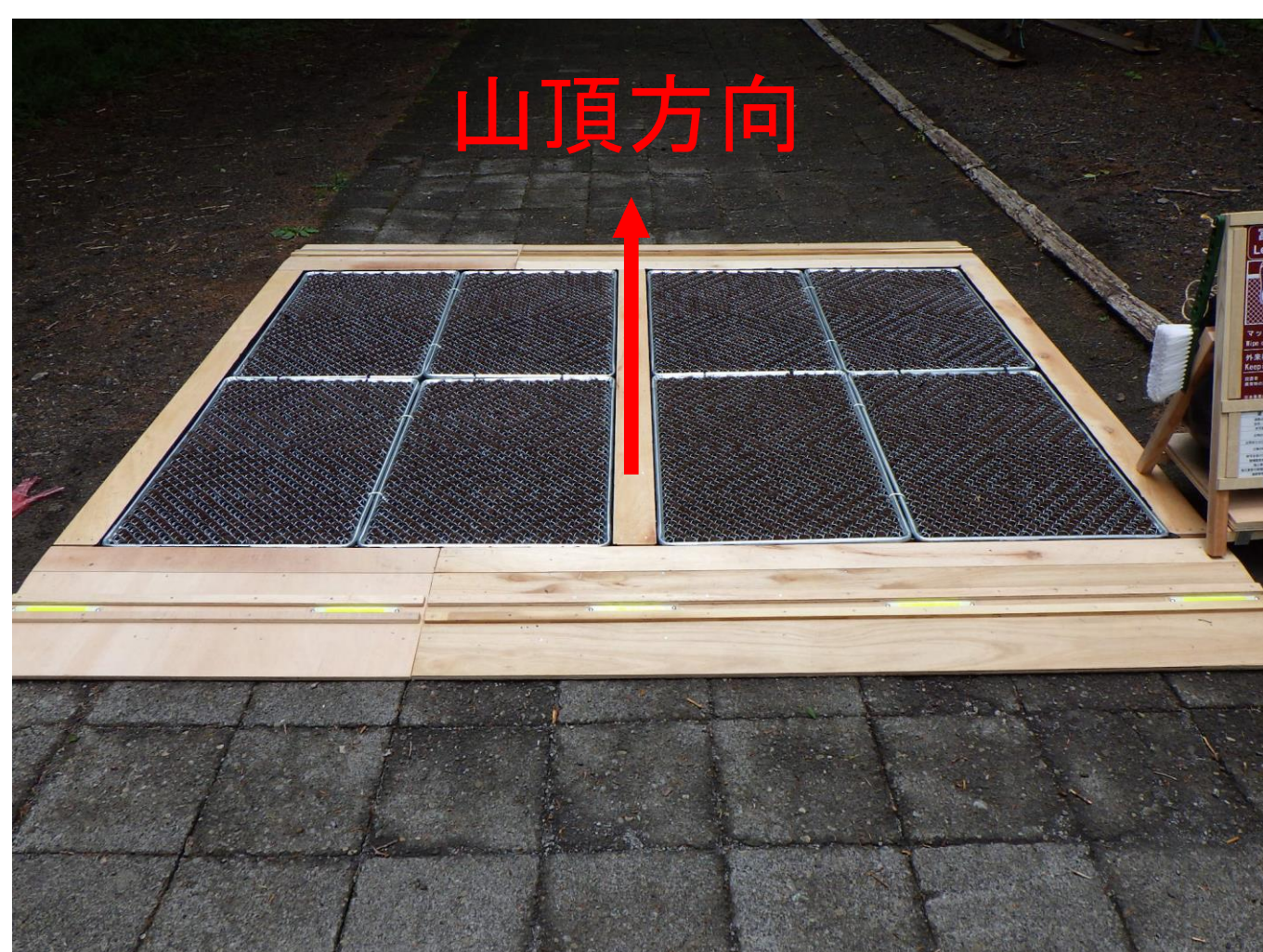
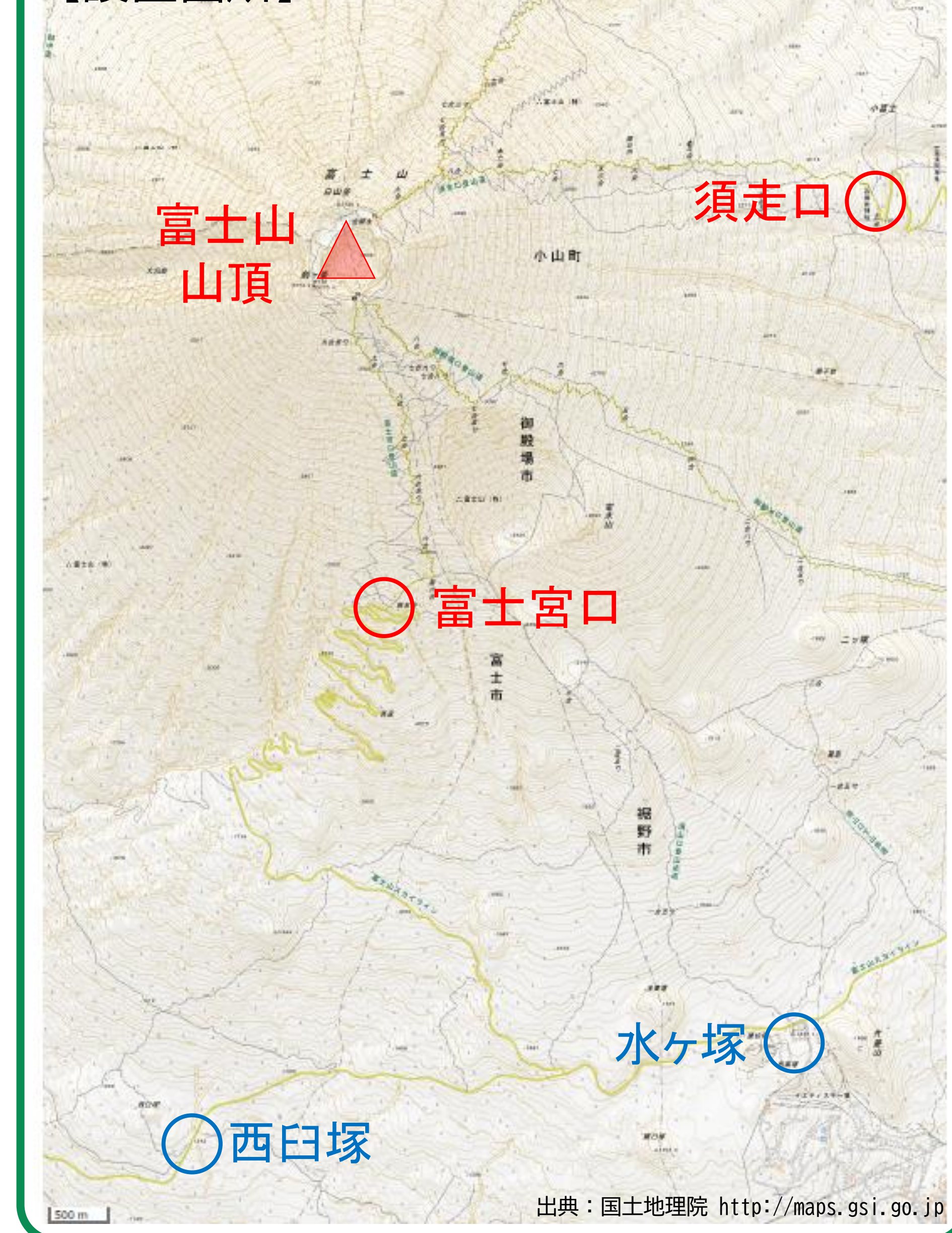


○酒井孝明、志田翔一朗、森口宏明、近藤多美子、北原佳郎、岡本壮野（株式会社 環境アセスメントセンター）
○望月靖郎（静岡県 暮らし・環境部 環境局 自然保護課）

1 概要

- 設置目的：富士山では人の移動により、外来植物（国内由来の外来種を含む）の侵入や、本来、高山・亜高山帯には分布しない低地性植物の侵入の可能性がある、在来種との競合や交雑が発生するおそれがある。本業務は、種子除去マット（以下、マット）等を設置することにより、外来植物の侵入を防止することを目的とした。
- 設置期間：7月上旬～9月下旬
※開山期間中の設置を基本とし、閉山後も数か月設置
- 実施年度：平成28年～令和3年
※令和2年はコロナウイルスの関係で富士山が開山しなかったため設置せず
- 設置箇所：富士宮口五合目（バス降車場付近、登山道入り口）、須走口五合目、
※平成30年以前は水ヶ塚駐車場（遊歩道入り口）、西臼塚駐車場（遊歩道入り口）でも試行

【設置箇所】



マット(須走口登山口)



マット(富士宮口登山口)

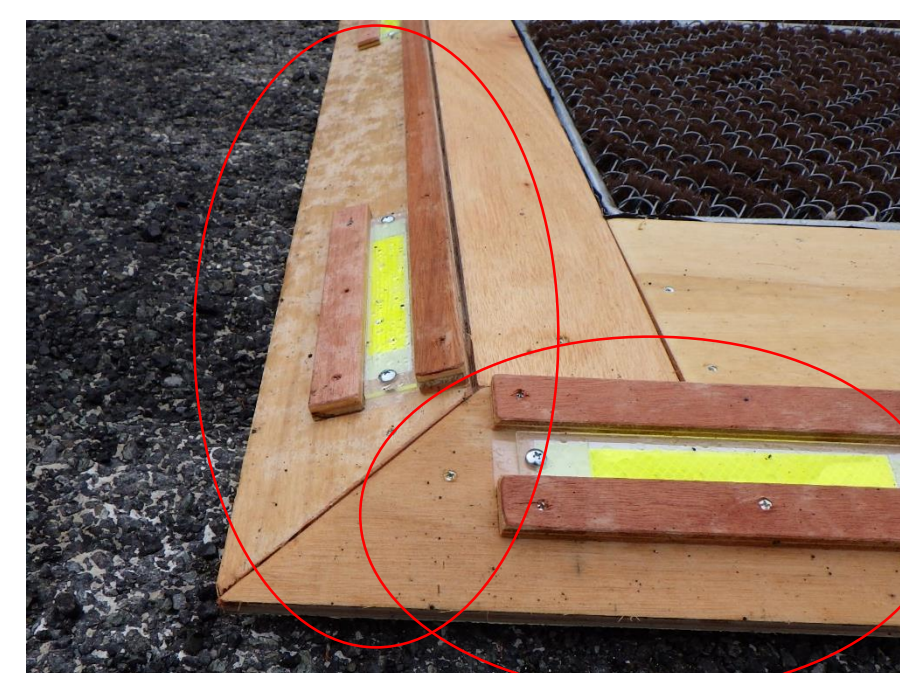


サインスタンド、ブラシ

2 実施状況（マットの構造等）

■マットの構造

- ・耐候性－防水加工された木材合板を使用
 - －ロープ・ワイヤーによるマットの損傷・移動防止
 - －アンカーによる固定、土のう等による重量増加で耐風性向上
- ・安全性－露出面の面取りによる転倒・つまづき防止
 - －スロープ設置による歩行性確保
 - －反射板・発光テープ布設による視認性確保
 - －滑り止め（横木）設置による歩行性確保
 - －設置版の連結による歩行性確保
- ・機能－防水シートをマット下側に敷設し細かい土砂・種等の確保
 - －雨樋・ネットによる雨水の排出、流れた土砂の確保
 - －マットの交換、土砂回収が容易な構造
- ・サイズ－登山道のサイズに合わせることで登山者の利用を促進
 - －接地面の不陸調整を行い、安定した構造物の設置



スロープ、反射板、滑り止め



防水シート、雨樋



土のう、ロープにより固定

<業務情報>

発注機関 静岡県 暮らし・環境部 環境局 自然保護課 富士山・南アルプス保全班
業務委託名 ①平成28年度 富士山外来種防除マット・ブラシ設置業務委託
②平成29年度 富士山外来種防除マット・ブラシ設置業務委託
③平成30年度 富士山外来種防除マット・ブラシ設置業務委託
④令和元年度 富士山外来種防除マット・ブラシ設置業務委託
⑤令和3年度 富士山外来種防除マット・ブラシ設置業務委託
委託期間 ①平成28年6月7日～9月30日 ②平成29年6月12日～12月11日
③平成30年6月11日～12月20日 ④令和元年5月23日～11月29日
⑤令和3年6月17日～11月30日

3 課題点および対応結果

課題点

■設置箇所

- ・水みちを遮断するように設置すると、降雨により土砂量が増加（本来意図としない土砂流入）
- ・降雨時の水みちにより、マット周辺の地形の浸食

対応結果

- ・場所の変更協議、サイズ変更、水みちの確保

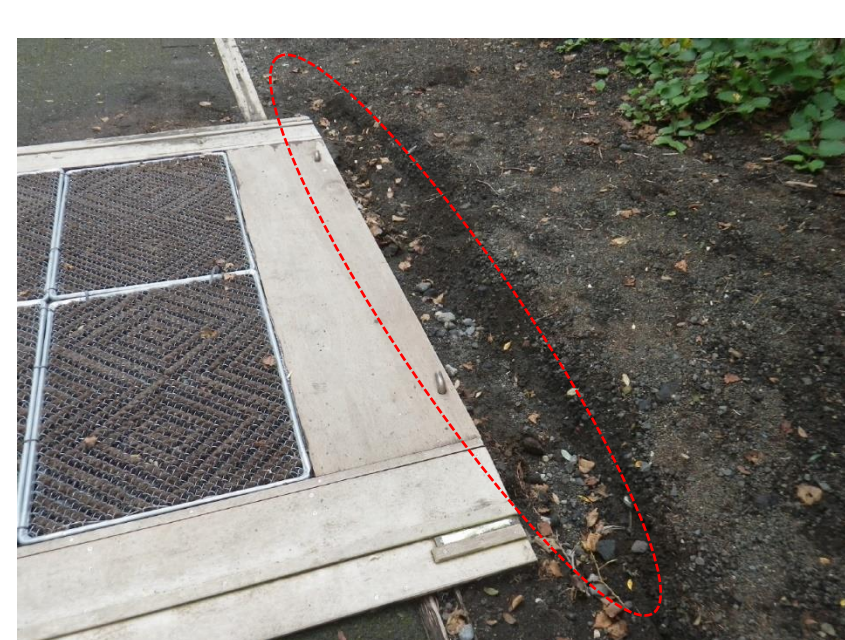


大量の土砂流入



場所の変更、サイズ変更

目的の土砂を補足



マット周辺の浸食



サイズ変更、水みち確保

4 留意点

■事前確認

- ・設置箇所の所有者・管理者（民地、官地）
- ・設置箇所周辺の法令関係（サイズ、色等）
- ・設置面の状態（舗装済or未舗装、不陸調整材の有無）

■構造について

- ・耐久性、耐候性の確保
- ・第三者への配慮（安全面、景観面）
- ・メンテナンスの方法・頻度（定期的なメンテナンスは必須）

■その他

- ・マットとサインスタンドはセットで設置が必須

5 まとめ

- 5年間（平成28年～令和3年）大きなトラブルもなく設置できた
- 土砂の回収（ハード）だけでなく、サインスタンド等による外来植物の防除への周知・普及啓発効果（ソフト）があると考えられる